



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ダイフク

コード番号 6383 URL <http://www.daifuku.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北條 正樹

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経本部長 (氏名) 木村 義久

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日

TEL 06-6472-1261
平成25年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	111,853	18.5	4,591	57.3	5,050	106.9	3,251	156.0
25年3月期第2四半期	94,418	△0.9	2,919	171.9	2,441	254.6	1,270	—

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 8,830百万円 (577.8%) 25年3月期第2四半期 1,302百万円 (284.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	29.39	—
25年3月期第2四半期	11.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年3月期第2四半期	219,805		93,460		41.5
25年3月期	206,875		85,685		40.4

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 91,110百万円 25年3月期 83,538百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
26年3月期	—	5.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	13.7	10,000	24.8	9,800	22.5	5,700	28.4	51.52

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	113,671,494 株	25年3月期	113,671,494 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	3,027,628 株	25年3月期	3,022,663 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	110,645,469 株	25年3月期2Q	110,653,327 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

連結業績予想の数値は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項につきましては、6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、TDnetで11月12日に開示し、同日、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	6
3. 四半期連結財務諸表.....	7
(1) 四半期連結貸借対照表.....	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書.....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界の経済は、中国をはじめとする新興国の多くで経済成長が鈍化しているものの、主要先進国で改善の兆しが見られます。また、わが国の経済も、緩やかながら景気回復の裾野が広がってきました。

当業界におきましては、競合状況は依然として厳しいものの、お客さま各業界の設備投資需要は総じて改善しつつあります。

このような環境のもと、当社グループの業績は順調に進捗しました。受注は、一般製造業や流通業向けシステムの中国や韓国、台湾における大型案件、自動車生産ライン向けシステムの米国や中国での大型案件などが寄与しました。売上は、各業界向けともに、豊富な受注残をベースに堅調に推移しました。

この結果、受注高は129,391百万円（前年同四半期比22.0%増）、売上高は111,853百万円（前年同四半期比18.5%増）を計上しました。

利益につきましては、ダイフク単体におけるコスト改善の一層の進展、コンテックグループの黒字転換、海外子会社の業績向上が寄与し、平成25年8月9日発表の予想値を上回りました。この結果、営業利益は4,591百万円（前年同四半期比57.3%増）となりました。また、円安による為替差益などにより、経常利益は5,050百万円（前年同四半期比106.9%増）を計上しました。また、四半期純利益は3,251百万円（前年同四半期比156.0%増）を計上しました。

なお当社グループは、米国マテリアルハンドリングシステムメーカーのWYNRIGHT CORPORATION（本社：米国イリノイ州、以下ウィンライト社）の全株式の取得について平成25年8月15日に同社株主と合意し、10月1日に買収を完了しました。平成25年4月からスタートした4カ年中期経営計画「Value Innovation 2017」では、平成29年3月期の売上高2,800億円、営業利益率7%を主な経営目標としていますが、達成のポイントの一つである米国市場拡大に向けての布陣を整えたものです。

また、平成25年9月12日に「2017年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債」（発行金額150億円）の発行を決議し、10月2日に払込が完了しております。調達資金は、ウィンライト社の買収資金、国内設備投資、有利子負債の返済に充当することを予定しています。「Value Innovation 2017」実現のための資金需要に応えるとともに、財務体質の強化を図るのが狙いです。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。売上は外部顧客への売上高、セグメント利益は四半期純利益を記載しております。セグメントに関する詳細は、後記（セグメント情報等）をご覧ください。

①株式会社ダイフク

《受注》

主力の一般製造業や流通業向け保管・搬送・仕分け・ピッキングシステムでは、農業、食品、医薬品、流通業向けの大型案件が堅調に推移しました。従来、このようなシステムは国内主体に展開してきましたが、平成26年3月期に入り、中国をはじめとする東アジア、東南アジア向けの受注が好調に推移しています。業種別では、インターネット通販など無店舗販売向けの需要が伸びており、韓国のネットスーパーからも大型配送センターを受注しました。大型案件のみならず、自動倉庫を中心とする中小型システムも、順調に推移しています。

半導体工場向けシステムは、高水準の設備投資が行われた前年度に比べ減少しましたが、米国の需要が下期に入り回復しつつあります。一方、中国の液晶パネル工場向けシステムの受注は、計画遅延による影響を受けています。

自動車生産ライン向けシステムは、北米、中国、東南アジアを中心とする引き合いが活発です。
《売上》

医薬、流通、農業、食品業界向けなどの国内大型案件が、堅調に推移しました。

半導体工場向けシステムの売上は韓国や北米、台湾向け案件が堅調に推移しました。液晶パネル工場向けは、中国向けが売上に寄与しています。

自動車生産ライン向けシステムは、豊富な受注残に加え、国内のサービス、小規模改造案件が寄与して、順調に推移しました。

洗車機は、メイン市場であるSS（サービスステーション）業界向けとCA（カーアフターマーケット）業界向けが昨年に引続き、共に順調に推移しています。

福祉車両搭載の車椅子用リヤリフトも、高齢化社会を背景に、堅調に進捗しています。

《利益》

一般製造業や流通業向けシステムのコストダウンの進展、自動車生産ライン向けシステムの好調なサービス売上などにより、セグメント利益は大幅に改善しました。

以上の結果、受注高は59,275百万円（前年同四半期比6.8%増）、売上高は53,170百万円（前年同四半期比4.7%増）、セグメント利益は2,373百万円（前年同四半期比250.6%増）となりました。

②コンテックグループ

国内の設備投資が持ち直しつつあることを受けて、デバイス製品の中でも産業用パソコン系機器の販売が増加いたしました。また、昨年12月に子会社化した米国のDTx社では、医療装置への組込用パソコンの販売が好調に推移しております。ソリューション製品では、太陽光発電計測関連の販売が引続き堅調に推移いたしました。

また、利益面におきましては、売上高の増加、製品の標準化推進による原価低減の効果もあり、大きく改善いたしました。

この結果、受注高は7,377百万円（前年同四半期比71.2%増）、売上高は6,114百万円（前年同四半期比55.7%増）、セグメント利益は56百万円（前年同四半期比161百万円増益）となりました。

③DAIFUKU WEBB HOLDING COMPANY (DWHC) グループ

DAIFUKU WEBB HOLDING COMPANY (DWHC) は、北米の事業を統括する会社で、傘下にウェブ社、ダイフクアメリカ、ELS HOLDING COMPANY（以下、ELS社）を置き、北米の経営資源を効率的に運用しています。

自動車生産ライン向けシステムは、設備投資需要が引き続き活発で、大型案件をデトロイトスリーから受注するなど好調に推移しました。売上も日系、デトロイトスリー向け大型案件が寄与しました。サービスも好調で、セグメント利益改善に寄与しました。

半導体メーカー向けシステムは、受注・売上ともに期初計画に対して堅調に進捗しました。下期からは、設備投資需要が回復しつつあり、窒素パージストッカーなどの受注が伸びています。

空港手荷物搬送システムは、米国政府の歳出削減などのため、設備投資計画が大きく縮小しました。一方で、既設空港のオペレーション&メンテナンスを行うE L S社が業績に寄与しました。

一般製造業・流通業向けシステムでは、小規模案件・サービス案件を主体に推移しましたが、今後は既に共同で大型案件を手がけた実績のあるウィンライト社を傘下に収めたことにより、大型案件を獲得してさらに業容の拡大を図っていきます。

この結果、受注高は24,507百万円（前年同四半期比1.4%減）、売上高は22,286百万円（前年同四半期比41.7%増）、セグメント利益は519百万円（前年同四半期比52.5%増）を計上しました。

④その他

「その他」は、上記3社以外の国内外の子会社であります。当社グループを構成する連結子会社は49社です。「その他」に含まれる主なものとしては、国内では、洗車機やボウリング関連製品の販売等を行う株式会社ダイフクプラスモアなどがあります。

「その他」に含まれる主要な海外現地法人としては、大福（中国）有限公司、DAIFUKU KOREA CO., LTD.、CLEAN FACTOMATION, INC.（韓国）、台湾大福高科技設備股分有限公司、DAIFUKU (THAILAND) LTD. などがあり、主にマテリアルハンドリングシステム・機器の製造・販売等を行っています。各社とも、グローバルな最適生産・調達体制の一翼を担い、国外への輸出も増やしています。

総じて、アジアの海外子会社を中心に業績は順調に推移しています。

中国では主として現地系、欧米系企業の活発な投資に支えられ、食品、飲料、医薬、製紙、流通などの業界からの受注が期初想定以上のペースで推移しました。液晶・半導体業界向けは、受注予定案件が遅れ気味に推移しています。自動車業界向けは日系以外のメーカーからの受注が中心でしたが、日系メーカーも能力増強のための投資計画を進め始めています。売上では、中国から海外への自動車工場向けの輸出が貢献しました。

台湾は、半導体業界案件で一部延期はみられるものの、製紙やタッチパネルメーカー向けの大型受注が寄与しました。

韓国では、半導体メーカーの業績が好転し、窒素パージストッカーなどへの設備投資需要が続いています。自動車工場向けは、韓国自動車メーカーの韓国内改造工事や中国現地生産需要を取り込み、順調に推移しました。また、洗車機の売上は、堅調に進捗しています。

A S E A Nのうち、タイやインドネシアは日系自動車メーカーの設備投資が引き続き活発で、タイ現地法人の工場はフル生産を続けています。また、食品業界を中心に自動倉庫の引き合いが活発になっています。

欧州やアフリカでは、LOGAN TELEFLEX (UK) LTD. とLOGAN TELEFLEX (FRANCE) S. A. S. が空港手荷物搬送システムの受注活動を進めています。

この結果、受注高は38,232百万円（前年同四半期比78.3%増）、売上高は29,135百万円（前年同四半期比28.4%増）、セグメント利益は1,571百万円（前年同四半期比73.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産の部について

当第2四半期連結会計期間末における総資産は219,805百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,930百万円増加いたしました。これは受取手形・完成工事未収入金等の回収および短期借入金の増加に伴って、現金及び預金が8,873百万円増加したことと、未成工事支出金等が2,162百万円増加したことが主な要因であります。

②負債の部について

当第2四半期連結会計期間末における負債は126,345百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,155百万円増加いたしました。これは短期借入金が5,384百万円増加したことが主な要因であります。

③純資産の部について

当第2四半期連結会計期間末における純資産は93,460百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,775百万円増加いたしました。これは保有する投資有価証券や為替の変動等によるその他の包括利益累計額合計が5,361百万円増加したことが主な要因であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期に比べ2,076百万円増加し、42,359百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と増減要因は以下のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期に比べ8,456百万円減少し、4,087百万円の収入超過となりました。これは、売上債権の減少額が8,490百万円あったものの、たな卸資産の増加額が1,696百万円、仕入債務の減少額が2,108百万円あったことが主な要因であります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期に比べ5,624百万円増加し、1,573百万円の支出超過となりました。これは、固定資産の取得による支出が1,656百万円あったことが主な要因であります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは前年同四半期に比べ1,907百万円減少し、3,544百万円の収入超過となりました。これは、配当金の支払額が1,102百万円あったものの、有利子負債の純増加額が4,748百万円あったことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成25年8月9日に発表した平成26年3月期通期の業績予想数値を以下のとおり修正いたします。

売上面では、平成25年10月1日に全株式の買収を完了した米国ウィンライト社(12月期決算)を第4四半期の3カ月分連結すること、米国の半導体工場向け搬送システムの需要が持ち直していることなどを反映させました。利益面では、ダイフク単体やコンテックの収益性改善が進展していることなどがプラス要因になりました。

なお、受注面でも、ウィンライト社の受注残および第4四半期の受注予定等を加味して、2,450億円の予想を2,600億円に修正いたします。

通期連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率	(ご参考) 前期実績 (平成25年3 月期)
売上高	225,000	230,000	5,000	2.2%	202,337
営業利益	9,500	10,000	500	5.3%	8,010
経常利益	9,000	9,800	800	8.9%	7,999
当期純利益	5,500	5,700	200	3.6%	4,439
1株当たり 当期純利益	49.71円	51.52円	—	—	40.12円

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,735	42,609
受取手形・完成工事未収入金等	68,826	63,294
商品及び製品	3,368	3,307
未成工事支出金等	5,751	7,914
原材料及び貯蔵品	8,484	9,047
その他	19,769	24,852
貸倒引当金	△105	△126
流動資産合計	139,831	150,899
固定資産		
有形固定資産	31,297	32,523
無形固定資産		
のれん	5,768	6,868
その他	3,266	3,123
無形固定資産合計	9,035	9,992
投資その他の資産		
その他	26,860	26,537
貸倒引当金	△148	△147
投資その他の資産合計	26,711	26,390
固定資産合計	67,044	68,906
資産合計	206,875	219,805
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	36,553	28,690
電子記録債務	—	8,248
短期借入金	28,221	33,606
1年内償還予定の社債	6,000	6,000
未払法人税等	1,416	2,246
工事損失引当金	739	622
その他	21,066	19,174
流動負債合計	93,998	98,589
固定負債		
長期借入金	19,163	19,110
退職給付引当金	4,712	5,136
その他	3,315	3,509
固定負債合計	27,191	27,756
負債合計	121,190	126,345

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,024	8,024
資本剰余金	9,028	9,028
利益剰余金	69,859	72,074
自己株式	△2,424	△2,429
株主資本合計	84,486	86,697
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,809	2,787
繰延ヘッジ損益	△14	△21
為替換算調整勘定	△2,743	1,647
その他の包括利益累計額合計	△948	4,413
少数株主持分	2,147	2,349
純資産合計	85,685	93,460
負債純資産合計	206,875	219,805

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	94,418	111,853
売上原価	77,132	91,312
売上総利益	17,285	20,541
販売費及び一般管理費		
販売費	7,091	7,724
一般管理費	7,274	8,224
販売費及び一般管理費合計	14,366	15,949
営業利益	2,919	4,591
営業外収益		
受取利息	42	138
受取配当金	153	144
為替差益	—	273
受取賃貸料	113	115
その他	104	240
営業外収益合計	413	912
営業外費用		
支払利息	441	433
為替差損	317	—
その他	131	20
営業外費用合計	891	453
経常利益	2,441	5,050
特別利益		
固定資産売却益	1	2
その他	3	—
特別利益合計	5	2
特別損失		
固定資産除売却損	47	21
投資有価証券評価損	63	—
会員権評価損	—	24
その他	6	3
特別損失合計	117	49
税金等調整前四半期純利益	2,329	5,004
法人税、住民税及び事業税	893	2,417
法人税等調整額	166	△713
法人税等合計	1,060	1,703
少数株主損益調整前四半期純利益	1,269	3,300
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△0	48
四半期純利益	1,270	3,251

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△0	48
少数株主損益調整前四半期純利益	1,269	3,300
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△457	1,000
繰延ヘッジ損益	0	△23
為替換算調整勘定	529	3,934
持分法適用会社に対する持分相当額	△39	618
その他の包括利益合計	33	5,530
四半期包括利益	1,302	8,830
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,283	8,613
少数株主に係る四半期包括利益	19	216

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,329	5,004
減価償却費	1,617	1,731
受取利息及び受取配当金	△195	△282
支払利息	441	433
売上債権の増減額(△は増加)	10,285	8,490
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,945	△1,696
仕入債務の増減額(△は減少)	934	△2,108
未成工事受入金の増減額(△は減少)	5,113	△1,593
その他	△3,259	△4,348
小計	13,321	5,629
利息及び配当金の受取額	191	281
利息の支払額	△434	△506
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△665	△1,514
その他の収入	130	197
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,543	4,087
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△231
定期預金の払戻による収入	67	205
固定資産の取得による支出	△1,038	△1,656
固定資産の売却による収入	39	67
投資有価証券の取得による支出	△57	△10
子会社株式の取得による支出	△2,352	△33
持分法適用の範囲の変更を伴う関連会社株式の取得による支出	△3,429	—
その他	△426	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,197	△1,573
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,600	4,896
長期借入れによる収入	9,311	9
長期借入金の返済による支出	△61	△158
自己株式の取得による支出	△1	△4
配当金の支払額	△1,100	△1,102
その他	△95	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,452	3,544
現金及び現金同等物に係る換算差額	47	1,769
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,845	7,828
現金及び現金同等物の期首残高	29,438	33,722
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	808
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,283	42,359

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DWHC	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,766	3,927	15,732	70,426	22,694	93,121
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,340	4,251	145	16,737	5,287	22,024
計	63,106	8,178	15,878	87,164	27,982	115,146
セグメント利益又は損失(△)	677	△105	340	912	906	1,819

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社であります。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	87,164
「その他」の区分の売上高	27,982
セグメント間取引消去	△22,024
工事進行基準売上高の連結上の調整額	1,450
その他の連結上の調整額	△153
四半期連結財務諸表の売上高	94,418

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	912
「その他」の区分の利益	906
関係会社からの配当金の消去	△134
工事進行基準売上高の連結上の調整額	△182
その他の連結上の調整額	△231
四半期連結財務諸表の四半期純利益	1,270

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DWHC	計		
売上高						
外部顧客への売上高	53,170	6,114	22,286	81,571	29,135	110,707
セグメント間の内部売上高又は振替高	11,507	3,737	1,088	16,333	6,381	22,714
計	64,677	9,852	23,375	97,905	35,517	133,422
セグメント利益	2,373	56	519	2,949	1,571	4,521

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社であります。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	97,905
「その他」の区分の売上高	35,517
セグメント間取引消去	△22,714
工事進行基準売上高の連結上の調整額	1,360
その他の連結上の調整額	△214
四半期連結財務諸表の売上高	111,853

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,949
「その他」の区分の利益	1,571
関係会社からの配当金の消去	△451
工事進行基準売上高の連結上の調整額	△191
その他の連結上の調整額	△626
四半期連結財務諸表の四半期純利益	3,251

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年9月12日開催の当社取締役会決議により、2017年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債を発行し、10月2日に払込が完了しております。

概要は次のとおりであります。

1. 社債の名称 株式会社ダイフク2017年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債
(以下「本新株予約権付社債」といい、その社債部分を「本社債」、その新株予約権部分を「本新株予約権」という。)
2. 本社債の総額 150億円
3. 払込金額 額面金額の101.0%
4. 本新株予約権付社債の募集価格(発行価格) 額面金額の103.5%
5. 本社債の利率 本社債には利息を付さない。
6. 払込期日(発行日) 平成25年10月2日
7. 償還金額 額面金額の100.0%
8. 償還期限 平成29年10月2日
9. 本新株予約権に関する事項
 - ①本新株予約権の目的となる株式の種類 当社普通株式
 - ②本発行する新株予約権の総数 3,000個
 - ③転換価額 1,406円
 - ④行使期間 平成25年10月16日から平成29年9月15日の銀行営業終了時(いずれもルクセンブルク時間)。
10. 本社債の担保又は保証 本社債には担保又は保証を付さない。
11. 調達資金の用途
 - ①米国における一般製造業・流通業向け保管・搬送・仕分け・ピッキングシステムの業容拡大のため、ウィンライト社の株式取得資金の全部又は一部として、平成26年3月期に最大5,000百万円。
 - ②平成26年3月期末までに発生する各事業にかかる設備投資資金として2,500百万円。
 - ③残額については、平成26年3月期末までの長期借入金の返済資金。